

◇◇◇指導体制の工夫・改善◇◇◇

西部管内の多くの学校で、個に応じた指導として少人数指導や習熟度別指導、TT指導を取り入れています。また、小学校では、教師の専門性を生かし、教科担当制を導入している学校が増えています。児童生徒にとって効果的な指導となるよう、担当する教職員同士の打合せを密にし、意図的・計画的な実践に努めましょう。

安中市立西横野小学校では

- I 4～6年の算数科において、学習のねらいや内容に合わせて習熟度別の少人数指導を実践しています。算数の少人数指導担当教員を位置付け、この教員が中心となり、他の教員と相談し、習熟の程度に応じた学習を組み立てるようにしています。
- II 理科の免許を所有している教員を理科専科に位置付け、4～6年の理科を理科専科の教員が担当し、学級担任とのTT指導も実践しています。



【算数の授業】



算数や理科の専科教員を位置付けたことにより、より深く担当教科の教材研究ができるようになりました。これらの教科の授業検討会を通して、他教科でも児童に考えさせるポイントを明確にした授業づくりができるようになってきました。

◇◇◇教員の指導力の向上◇◇◇

校内研修で一人1研究授業を実施し、お互いの授業を参観し合い、目指す授業像を共有することは、学校全体で授業改善に取り組む上で重要です。学年や教科に関係なく、日頃の授業をお互いに参観し合い、日常的に学び合う風土を築いていきましょう。

高崎市立群馬南中学校では

- I 各教科部会で「目指す生徒像」について協議したり、研究授業の指導案を検討したりするなど、各教科部会が中心となって研究授業を進めています。
- II 一人1研究授業の公開は、一人の授業者が1日のうちに複数の学級で同じ授業を公開し、他の教員は自分の空き時間の時に授業を参観するようにしました。職員室に拡大した指導案を掲示しておき、参観した教員が気付いたことを付箋紙に書いてすぐに貼れるようにしました。



【数学の授業】



空き時間を利用して授業参観できるようにしたことにより、教職員が参観しやすくなるとともに、授業者が参観者の意見を次の授業ですぐに取り入れることができ、いち早く授業改善に生かすことができます。

◇◇◇家庭・地域との連携◇◇◇

地域の方を学校に招いて学習面の支援に入ってもらうなど、地域の教育力を活用していくことは、子どもたちがより深く学べる環境をつくる上で重要です。地域の方に担っていただきたい役割を具体的に示し、地域ぐるみで子どもたちを育てていく体制を築きましょう。

高崎市立新町第二小学校では

- I 「ステップアップ算数教室」として、3、4年生（希望者）を対象に週2回（月・木）、地域の学習ボランティアの方を講師に招き、算数の補充学習を実施しています。
- II 時間は45分間で、主に問題プリントを中心に、丸付けをしてもらったり、分からないところの質問に答えてもらったりしています。
- III 「地域運営委員会」に所属する教員がボランティアの方との連絡・調整をしたり、問題プリントを準備したりしています。



【ステップアップ算数教室】



3年生は全員、4年生も半数の児童が参加しており、知識・技能の定着が見られるようになってきています。地域の方に定期的に学校に来てもらうことにより、開かれた学校づくりへの教職員の意識の向上にもつながっています。